

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191600111		
法人名	株式会社 ワイグッドケア		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	埼玉県上尾市小敷谷716-1		
自己評価作成日	令和5年1月5日	評価結果市町村受理日	令和5年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和5年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活で喜びやハリ、役割、生きがいがある様、利用者様の今までの生活をご家族様にも聞き取りをし、施設に入居されてもその人らしく過ごせる様、ご自分の意思決定を尊重します。利用者様が安心、安全に生活が出来るよう、またご家族様の信頼を築くことが出来るよう努めています。職員が楽しく仕事が出来ないとご利用している方への良い支援が出来ないと考え、職員が笑顔を絶やさないように、楽しいこと、新しいことを極力取り入れていけるように努めているとともに、気付く事の大事さを常に意識するよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・「五感の刺激」を大切にしながら、コロナ禍により制限のある中、「食べること」、「観ること」に重きを置き、毎日がより楽しく、安心して暮らせる取り組みが行われている。また、管理者は職員の働きやすい雰囲気づくりに務められ、職員の悩みやストレスにも耳を傾け、離職防止に繋がっている。
 ・運営推進会議は、コロナ禍の為、実施の必要なしとのことで開催されていないが、今後はコロナ感染の状況をみながら集合して開催することを検討されている。
 ・目標達成計画の達成状況については、災害時の対策として非常食と飲料水など備蓄を整備されていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全で笑って楽しい生活を送って頂き、関わる方への感謝、尊重を忘れずに認め合い信頼し合える環境を目指しその人らしさ、自己決定を尊重しチームケアを大切に地域でのふれあいを大切にするという理念を掲げ、都度ケース会議等において実践につなげている。	「五感の刺激」を大切にされた方針のもと、利用者一人ひとりに寄り添う支援に努められている。コロナ禍により制限のある中、「食べること」、「観ること」に重きを置き、毎日がより楽しく、安心して暮らせる取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍進行中で現在交流控えています。	以前は介護相談員、民生委員、自治会との交流やボランティアの来訪等地域との付き合いが行われていたが、コロナ禍により現在交流は控えられている。今後は感染状況を見ながら、少しずつ交流が再開できるよう検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍進行中で現在交流控えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍進行中で現在交流控えています。	運営推進会議は、以前は市の介護課、民生委員、介護相談員などの参加を得て定期的に開催されていたが、コロナ禍により開催の必要がないとのことで、運営推進会議は開催されていない。今後は感染状況を見ながら集合して開催することを検討されている。	コロナ禍により運営推進会議の開催ができない状況が続いております。事業所の実情を理解いただくと共に、会議メンバーからの率直な意見をサービス向上に活かせる取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍進行中で現在交流控えています。	ケアマネジャーが窓口に出向き、手続き、報告、相談等行うほか、情報提供等メールでやり取りが行われている。また、法人併設の小規模多機能居宅介護事業所と共に地域包括支援センターと交流、連携を図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、都度のミーティングやカンファ及び3、6、12月定期研修会を行っている。	虐待、身体拘束委員会を開催するほか、全職員を対象に「チェック表」を用いたアンケートが行われている。また、月1回のカンファレンスでの話し合いや法人本部主催のzoomでの個別研修などが行われ、身体拘束と虐待防止について職員への周知が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼、ミーティングやカンファ時等、都度話し合いを行っている。また虐待防止の研修も定期的に行い、不適切な言動を見過ごさない様、職員一同で意識し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングやカンファ時等、都度話し合いを行い、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず重要事項説明書を読みあわせ、疑問や不明点が無いか確認し、十分に説明を行い同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の訪問時にご要望やご意見を取り入れ、サービス向上に努めている。	家族とは、電話や面会時に利用者の様子を伝え、リハビリをして欲しい等の要望を聴き取られている。利用者からは、昼食後レクリエーションを楽しみたいなど要望があり、反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングの中で意見収集を行い、改善に努めている。また毎月管理者会議を行い各職員の意見を報告。	カンファレンスでは意見が言いやすい雰囲気作りを工夫され、日々の業務の中でも気軽に意見が言える関係づくりに努められている。管理者は職員の働きやすさに配慮され、職員の離職防止に繋がられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、研修の参加、社員登用制度を設け、職場環境、条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修を受けられる様、都度情報提供と機会の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、勉強会への参加に努めている。また行政主導の事業者協議会及び事業者間の協議会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に出来る限りの意向、要望を聞き、要望や留意点に関してのまとめを作成し職員への情報共有を行い、ご本人、ご家族様を理解する様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困りごとや要望を十分傾聴し、サービスに反映できるようにしている。上記と同様に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険制度や各サービスの説明を行い、現在の必要としているサービスを適切に判断し、その方に適切と思われるサービスの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様ができることを判断し、ご自身が可能な事はともに職員と行って頂き、やり甲斐や生活のハリを見つけて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為少人数、時間の制限をし、その都度ご家族に近況の報告をし、都度のご要望を伺い、共に支えていく関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為手紙などではなじみの人との関係が途切れないように努めている	携帯電話での会話や手紙の取次ぎなど、今までの関係が途切れないよう支援されている。ギターを持ち込み趣味の事を続けたり、YouTubeを取り入れて昔の映像や音楽など懐かしく楽しんでいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや生活リハを通じ利用者様の交流を深めて頂き、また席を配慮し職員が会話をつなげ、利用者様同士が関われるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までのつながりを大切にし、必要時に相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にご本人様やご家族様から希望要望を確認し、日常の会話や日頃の様子からも、意向の把握に努めている。	日頃からコミュニケーションを多く取るよう努められ、入浴や夜勤時の1対1の機会を捉えて日頃言えない気持ちを把握されている。また、日々の様子を良く観察し、その時々の変化にも柔軟に対応されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人様の趣味や今までの生活歴を確認し、また日頃の会話からのアセスメントや定期的なカンファによるアセスメントを行い、一人ひとりをよく知る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にケース会議を行い、日頃の状況について情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期のケース会議に加え、必要時にケース会議を行い課題や支援の方向性を検討し支援している。	月1回カンファレンスで職員からの意見をもとにモニタリングを行い、課題があれば都度見直しが行われている。利用者、家族からの意向を聴き取り、看護師からの医療的な意見も取り入れ、個々に合わせた介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個々の介護記録ファイルを作成し、記録し、日々の変化を共有し、ケアに生かしている。連絡ノートを活用し、職員間の情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の要望による通院援助や個別に必要な物品の購入、個別食の提供等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため地域のボランティア活動を受け入れがありません。□ □		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様のかかりつけ医への受診や、電話相談等の協力を得て連携を図っている。	協力医療機関は24時間いつでも相談することができ、安心できる医療体制が整備されている。家族付き添いでの受診時は、バイタル表など書面で日常の状況を医師に伝え、受診結果は連絡ノートで職員間の共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を記録に残し、毎朝の朝礼での報告を行い、都度看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこちらでの状況を伝えるサマリー等を送付し、主治医、医療ソーシャルワーカー等と適時相談し入退院併せご本人様、ご家族様とも話し合いを行い支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期に家族との話し合いの場を設け、主治医や看護師、こちらの職員同席し現在の状況及び今後の予測、ご本人、ご家族の意向を確認し、方針を皆で共有し、カンファで対応を検討し、介護計画を作成しチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期について事業所の方針の説明が行われ、重度化した場合には利用者、家族の意向を聴き取り、医師からの判断をもとに見取りの支援が行われている。看取り時は看護師を中心に方針を共有して取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変マニュアルをステーションに掲示し、ミーティング、研修等で確認を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、訓練指導を実践している。	年2回定期訓練では消火器の設置場所や消防設備の使用方法等確認されるほか、避難誘導や避難方法などいざという時を想定して実践的な訓練が実施されている。また、災害時の備えとして食料品や飲料水などの備蓄を整備されている。	定期的な訓練や備蓄の整備が行われ、災害対策には十分に組み込まれております。いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるよう、今後も継続した取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング等で都度確認し周知している。また、排泄誘導時の声掛け時には周囲の状況に配慮したり、入浴時の着替えなどは、ドアを閉めたり、目隠しをすることで羞恥心に配慮している。	「ちゃんづけで呼ばない」、「人格を尊重する」等が法人の評価シートに盛り込まれ、言葉遣いは距離感を大切に考えられるなど、適切なケアに努められている。個人ファイルは鍵のかかるキャビネットで保管し、ホームページ等の写真掲載は同意書もともと管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普通のなにげない会話を会話や笑いの中から利用者様が話しやすい環境づくりに努め、誕生会や食事レクではご利用者様のリクエストにお応えし、またレク、催しも出来る限りのリクエストにお応えできるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を強制することなく、好きな事を自由な時間に行なって頂く様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望により、定期的に理容師にヘアカットを依頼している。洋服など、その人らしい、身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に料理の下準備等を手伝って頂いている。配膳や盛り付け、テーブル拭きなど職員と一緒に役割を楽しんで行っている。また定期的に食事レクを行い、利用者様が食べたい食事を提供するよう努めている。	好き嫌いの好みや食事形態、アレルギーの対応など個々に合わせた食事が提供されている。クレープと一緒に手作りしたり、季節の行事食や好きなお弁当を選んでいただくなど、食事が楽しみとなるよう様々な工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル、食事量、水分量が一目で分かるように表記し、一日の健康状態に応じた支援に配慮している。また状況の変化の際は医師、看護師に相談し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の受診と併せ、口腔ケアの声掛け誘導、見守りを行い一人ひとりの清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況を確認し、定期的な誘導と状態を見ながら支援している。極力オムツの使用を控える様配慮をしている。	安易にオムツに頼ることをせず、できる限りトイレで排泄できることを原則として支援されている。重度化しても立位が取ればトイレに座っていただき、退院時オムツでも布パンツに変えた事例などもあり、排泄の自立に向けた支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を確認し、水分摂取の声掛けや、往診医に相談し適切な服薬調整や身体を動かして頂く様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間等出来る限り、ご利用者様の希望や体調に応じられる様スケジュールを調整している。	週2回を基本に、入浴の順番の希望や好みのシャンプーを持ち込まれるなど個々に合わせた入浴支援が行われている。血圧が高い方は医師の指示を確認した基準のもと安心して入浴していただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けなない時には、職員が話し相手となったり、お茶を飲んで頂いたり、安心して眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬説明書を添付保管し、また外用薬指示書を都度更新し職員全員が把握できるように対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族や利用者様に聞き取りを行い、生活歴や趣味、得意なことを活かした役割を持ち、張り合いのある生活を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、体調の良い時は散歩やドライブに出掛け、外気に触れる機会を確保し気分転換を図れるよう心掛ける。	コロナ禍で外出が困難な中、外気浴を楽しまれるなど気分転換が図れるよう工夫がなされている。今後はコロナ感染状況をみながら外出できる方法を検討されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様及びご家族様の希望により、ご本人様に金銭管理を行って頂いている。また、適宜買い物もして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて、自由に電話を掛ける事や郵便が出来る様対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、季節感を感じて頂けるような物を飾ったり、また掲示物をご利用者様と一緒に手作りで行い、心地よく過ごせる様に配慮している。	明るく広々としたリビングには利用者と一緒に手作りした作品やイベントの写真、季節感のあるものが飾られ、テレビを観たり、談笑したり、塗り絵など楽しまれ、利用者それぞれが思いおもいに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望に応じて別フロアで過ごして頂いたり、気の合う方同士のテーブル配置等により対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真や馴染みの椅子、家具、以前使用されていた物等を持ち込んで頂き、心地よく過ごせる様に支援している。	テレビやタンス、時計や化粧品、仏壇、家族の写真等持ち込まれ、入居前と同じような環境で落ち着いて過ごせる居室づくりが行われている。居室ではギターを弾いたり、新聞を読むなどその人らしく過ごせるよう支援をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁には手すりを設置し安全に過ごせる様支援している。食事の食器やコップ、洗濯物等、ご自分の物はなるべくご自分で扱って頂くように努めている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームのぞみ

目標達成計画

作成日: 令和 5年 4月 19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策の徹底、消防署による訓練指導をしていない。	5月からコロナ5類に移行され、人が集まることができるので、消防署の協力による訓練指導を実践する。	開催時期のタイミングをはかり、消防署に連絡する。	6ヶ月
2	4	運営推進会議ができていない。	5月からコロナ5類に移行され、人が集まることができるので運営推進会議を開催し、サービスの向上を目指す。	開催時期のタイミングをはかり、課題を決め市役所などに連絡をとり会議を開く。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。